

## 第20回 全員協議会会議録

1 日 時 令和6年12月19日(木) 午後1時51分 開会

2 場 所 本会議場

3 出席委員 15名

議 長	小嶋正彰	議 員	渡部道宏
副 議 長	宮崎淳一	〃	天野京子
議 員	島田竜史	〃	阿部幸夫
〃	今田亜樹	〃	横尾祐子
〃	渡邊能成	〃	高田保則
〃	岩澤愛	〃	宮澤一照
〃	葭原利昌	〃	霜鳥榮之
〃	堀田孝次		

4 欠席委員 0名

5 欠 員 1名

6 説明員 7名

市 長	城戸陽二	農 林 課 長	高橋正一
総 務 課 長	大野敏宏	環 境 生 活 課 長	岡田雅美
企 画 政 策 課 長	岡田豊		
財 務 課 長	西條保		

7 事務局員 3名

事 務 局 長	横田晃悦	主 査	貫和志行
庶 務 係 長	霜鳥一貴		

8 件 名

- 1) えちごトキめき鉄道に対する新たな行政支援スキームの検討状況について
- 2) 妙高高原駅バリアフリー化手法の変更について

---

○議長(小嶋正彰) ただいまより全員協議会を開催します。タブレット、タブレットのサイドブックスのアプリをアップして、市議会フォルダの中の全員協議会フォルダ、本日の資料061219全協レジメ(執行部側)がありますので、ご確認ください。

---

1) えちごトキめき鉄道に対する新たな行政支援スキームの検討状況について

○議長(小嶋正彰) よろしいですか。1) えちごトキめき鉄道に対する新たな行政支援スキームの検討状況について報告願います。岡田環境生活課長。

○環境生活課長(岡田雅美) 議会最終日の貴重なお時間をいただきまして、2点ほど私の方からえちごトキめき鉄道

に関するご報告のほうを、議員の皆様にご覧いただきたいと思っております。まず1点目は、えちごトキめき鉄道に対する新たな行政支援スキームの検討状況についてということでご説明させていただきます。現在、えちごトキめき鉄道におきましては、令和8年度からの中期経営計画を策定しているところでありますが、さらなる費用削減や収入確保などの自助努力を行ったとしても、現時点で令和8年度以降、14年度までの間に、20から25億円程度の資金不足が見込まれております。そのため来年秋ごろから、20%程度の運賃値上げを検討するとともに、県及び沿線3市、上越市、妙高市、糸魚川市は、令和8年度から14年度までの7年間において、新たな指揮支援スキームについて検討を行っているところであります。それではお手元の説明資料のペーパーといたしまして、画面をご覧くださいと思います。まず、この新たな行政支援スキームの対象期間としては、次期計画に経営計画に該当する、令和8年度から14年度までの7年間となります。現在行っております主な検討内容といたしまして、まず、トキ鉄、はこの経営計画を策定しておりますが、今ほど申しました通り、経営努力等を行ったとしても、現時点での見込みでは、14年度までに20から25億円程度の資金不足が、まず見込まれるということが前提となります。

②、これに対する行政支援として、これを受け、県及び沿線3市は、次期中期経営計画期間における、新たな支援スキームを検討しておりますが、トキ鉄の大規模設備更新に要する経費については、一旦新潟県がトキ鉄に貸し付ける方向で検討しておりますが、トキ鉄の経営経営安定のために、毎年度必要となる資金については、県、沿線3市、4対1の割合で支援することを検討しております。県が4に対して沿線3市1ということで、項目の4番目、番号の4経営支援額試算ということで、それぞれ県、沿線市が、沿線市が4対1でこの20から25億円を支援するとした場合のシミュレーションをしておりますが、例えば20億であれば20億の経営支援を行うとした場合、県が16、沿線市が4億で、この沿線市の中でも一番最初にトキ鉄ができたときの出資割合で割り返しますと、妙高市につきましては、この7年間で8000万から9000万、年額にしますとこの括弧内ということで、1100万から1300万というような、経営支援の内容となります。

戻りまして③、運賃値上げについてということで、トキ鉄におきましては、すでに令和4年4月に20%程度の運賃値上げの方を公表しておりますが、この20%につきましても、できる限り鉄道施設のスリム化、或いは維持費の削減、遊休資産の売却等により、トキ鉄の自助努力により、値上げ幅を抑えるよう、現在も検討しているところであります。

④、運賃改定による影響の抑制についてということで、妙高市におきましてはすでに今年から通学費の助成の方を行っておりますが、上越市、糸魚川市におきましても、通学定期利用者の負担削減のための支援策を現在検討しているところであります。⑤、その他といたしまして、開業当初からの指揮支援スキームということで、固定資産税、都市計画税相当額は、そのままトキ鉄の今の補助のための支援にあたって充てておりますが、これは継続した上で、先ほど申し上げました通り、年間1100万から1300万程度の、新たな支援が今後見込まれるということになります。3トキ鉄の支援残高の推移予測ということで、この表を見ていただきますと、右下にずっと下がっていくような形になりますが、令和9年度には、事務、資金残高が枯渇してそのままマイナスになっていくというような今見込みとなっております。令和14年度には、20から25億。今後の経営努力次第で、若干ふれ、ぶれは下ぶれ上ぶれはあろうかと思いますが、20億から25億の資金残高の、マイナスが見込まれる形となっております。項目の4番目経営支援額の試算につきまして先ほど申し上げた通り、現段階で県が4、沿線市が1という割合で、今後負担していくとなります。5番目主要区間の運賃比較ということで、主なところだけ申し上げますと、新井から高田の場合、普通運賃が280円から340円ということで、60円増額となります。通学定期におきましては、5400円の上昇となりますが、月に直すと、900円ということになります。関山から高田で言いますと、普通運賃で110円のプラス、通学運賃で9380円、月にならしますと1563円。妙高高原から高田におきましては、普通運賃で160円の

プラス、通学定期で9870円。次、月額にしますと1645円となります。以上説明申し上げましたがこれにつきましては、新潟県、上越市、糸魚川市と妙高市ということで、ほぼ同じタイミングということで、上越市糸魚川市におきましてはこの16日、県と上越市につきましては17日で、妙高市が19日ということで、ほぼ同じ時期に同じ内容でご説明をさせていただいているところでもあります。以上、よろしくお願いたします。

○議長（小嶋正彰） ただいまの件について、何かございますか。高田議員。

○議員（高田保則） ちょっと古い話で大変申し訳ないですけども、当初このとき、あの第3セクターになるときに、議会でも交通対策特別委員会を確かに3年だか4年、開催して設置していろいろとしたわけですけども、その中でですね、県の、当時、当時の泉田県知事ですかね、この第3セクターになるにつれて、JR、県、どうも第3セクターに移行するってというような条件だか、ちょっとわかりませんが、420億ぐらいの援助をすると、というような確かな文書にはないんですけども、そういうことで、確かこの第3セクターと糸魚川も高田も、上越も、妙高市も、調印したような経過もあるんですが、その辺のいわゆる現状はですね大変厳しいってのは、今の乗降客から言えばわかるんですけども、当初のそういう大まかになっていきますか、大きな支援ってというものについては、今どんな状況になってるか、もしわかりましたら説明してもらいたいです。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長。

○環境生活課（岡田雅美） お答えいたします。新幹線整備、新幹線が通ることになって、県が責任をもって第3セクターになっての鉄道を存続させるという協定の方を当時結ばさせていただいておりますが、具体的に国の支援はどうなってるかということで、開業前に国から30年間で830億円の支援、こういったものが支援を行うということで聞いている中で、現在の状況で言いますと、令和4年度までの支援実績については、303、322億円となっております。こういった支援を受けてはおりますが、当初では予測できなかった、優等列車の運行廃止、これはトワイライトエクスプレスとかそういった優等列車のことを言ってるんですが、そういったもの新型コロナの影響による旅客収入の減少、それと、当初あまり想定してなかったやっぱ、海の方は塩害ということで塩の害ですね、そういったものの、ための設備の取りかえ、車両の速度制御装置の更新など、想像以上に設備投資が進んでいるということで、今の苦しい状況の、一旦、原因となっていると聞いております。

○議長（小嶋正彰） 高田議員。

○議員（高田保則） その車両とかその設備とか、それについてはね当初から、いわゆる車両でも、まるっきり新車ってことじゃなくて、JRの各線から、貸与し、貸与か買取りかわかりませんが、乗降車両で運行してるんですけど、今でもそうですけどね、それ当然当初からメンテナンスかかるってのは予想できたわけですよね、それらについてどういうふうに進んできたのか、また交通対策特別委員会でも、問題になったんですが、不要な設備、例えば、関山、旧関山駅の引込み線、あれは確か、売却すべきだというような意見があったと思うんですが、そのまま引き継いでいる。そうゆう、その直接運行に関係ない、いわゆる遊休資産ってものがあるような気がします、その辺の今後の計画ってのはどういうふうかご存じでしょうか。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長。

○環境生活課長（岡田雅美） お答えいたします。ちょっと説明が足りなかった部分があるかと思いますが、現在、不足額がさらに増えていくというその中には、もちろん人口減少による旅客収入の減もありますし、物価が高騰している中で光熱水費の上昇、それとコロナの影響があって旅客収入が戻ってこない。そういったものを踏まえてですね今後の見込みが非常に難しいってことになっております。例えば、使った、どっか使った電車をこちらで使う、そういった努力ももちろんしておりますし、今遊休施設となっている部分についても、売却なり処分、そういったものは今後も進めていくことで、努力を進めていくことで、先ほど20%の上昇っていうの案ということでお知らせ、

ご説明させていただいたところですが、その辺を踏まえてですね、一層のトキ鉄側の経営努力をまた求めていききたいなというふうに思っております。

○議長（小嶋正彰） 高田委員。

○議員（高田保則） そういうことで鉄道業者ですのですね、運行、いわゆる旅客運送ってということね。専念した、やっぱり事業計画を立ててやっていただきたいと思いますし、今の遊休資産ってのは相当多分、私見た中でも全部ありますよね。そういうものをやっぱり、徐々に処分するか何かをしていかないと、人口減少だとかってというのはもう、これも1事業者では賄っていかないか、解決できない問題もありますし、我々妙高市自体も、その問題に非常に苦労してるわけですから、それらを踏まえてこれから、いわゆる鉄道事業者ということで、あまり余計なお金をかけないで運行するものにぜひ専念していただきたいということでお願いして質問を終わります。

○議長（小嶋正彰） 他に、渡部道宏議員。

○議員（渡部道宏） この鉄路について私も前からこれ絶対なくしちゃいけないと思ってるんですよ。それで、県4の3市で1つというんですけども、ここちょっとずつ出すからあれなんであって、もっとでっかくかけられないもんすかね。例えば、今なんで鉄道が人気がない、無くなってきたかっていうと確実性が無くなる。雪降りや止まる雨降りや止まる風吹けば止まる。それはJR東のときは無かったんですよ。何でかって言ったら人員がいるし、それに通す、何て言うんですかね。除雪車も充実していたということで、それで、定期に行くはずの鉄道が、もう不定期になってしまったからやっぱり使わなくなる。であれば、少しずつそんな財政支援するよりも、一気にどんとお金をかけて人員を増やしてやり、除雪車増やしてやり、確実にその時間にはそこに目的地につけるんだと。というような体制を整備してやる。また、電車についてはCO2を出さないという、乗り物ということもありますし、今このSDGsのシャバにも合致してるんで、今こそお金かけて、そこをどうにかしてやって、それをメインとして使っていくっていう方針は立てられないものなんでしょうか。いかがでしょうか。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長

○環境生活課長（岡田雅美） お答えいたします。昔の国鉄時代は確かに冬でもめったに止まることがなかったということで、我々の学生時代はそういう感覚がありますが、最近は風は吹けば止める、大雨でも止める、大雪でも止めるということで安全第1ということで、ただこれはトキ鉄に限らず、もう計画運行という言葉が定着している通り、まず安全性が第1ということで運行してるってことですんで、その辺のお金だけの問題じゃなく、安全運行管理の面から、またトキ鉄の方にそこら辺はできるだけ頑張ってもらいたいと思うんですが、まずは安全第1ということで、行っていただきたいなというふうに考えております。

○議長（小嶋正彰） 宮澤議員

○議員（宮澤一照） ちょっとお聞きしたいんですけども、やはり人口減少問題でね、やっぱり市民が市民の足だと思うんですよ。この例えば、高校生の定期、これ見たって、やっぱり1万円近く上がってるってことはこれ深刻な問題だと思うんですよ。それで、トキ鉄にしてもそうだけど、そもそも論は、これは並行在来線で要するに設置後、県とそれから国とそれから行政で賄うということがその後には調印されてるはずですよ。これ。今になってから、これがわかってスキームができるのか知らないけれども、このままだったらこれで乗る人も6カ月ってやっぱりね高校生学生さんはね、これきついですよ。1万円親御さんたち、家族は大変ですよこの時期。こんなことしてるからね、地方、地方の都市っていうかがどんどん反映しなくて、みんな一極集中の都会に行っちゃうんですよ。これ。ちゃんと国に言わなきゃ、この、このサインの、以前ねサインした、要するにこの合併前の自治体のね、最後の調印もあるはずですよ。この辺をどのようにお考えですか、まず1点これ。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長

○環境生活課長（岡田雅美） お答えいたします。まず通学定期の関係になりますが、前回 2020 年に値上げした際も、通学定期については、通勤定期額定期に比べても非常に割安くついでいますか、削減、安くするというので、これは今回もそのまま行くような形になりますが、具体的に言いますと、新井高田で言いますと、通勤定期に比べて、割引率が大体半分ということで、通勤の子供たちの子供たちには、迷惑をかけないようにしておりますし、これを受けて策、今年から通学定期の通学支援を行っておりますので、この辺もこの値上げがあったとしても影響が大きくなるように、配慮して参りたいなと思っております。それと鉄道の問題で、議員おっしゃる通り、もう第 3 セクターってのは、どこの鉄道も非常に苦しい、状況ってのは変わらないということで、全国 3 セク協議会というのがございますので、こちらの方を、我々もそれに加わる中で、国の方に、3 セク鉄道に対する支援というのは、引き続き求めて参りたいなというふうに考えております。

○議長（小嶋正彰） 宮澤議員

○議員（宮澤一照） 割引だって言うんだけど、それは 1 万以上じゃないと割引にならないとか、そういうふうな形の高校の定期っていうことは私ちょっと耳にした話なんだけれどもね。例えば、例えば関山高田にしたってこれ 9380 円今度差額が出るんでしょう、ということは上がってることは上がってるじゃないですか。もうそんでなくても上がってんの、もっと上がってくれたらこれはねやっぱりね、辛いですよ。そして、補助が出るのはどこから出るのか、どの額から出るのかっていうことを考えたときに、該当しない人だっただけ出てきますよね。そういうことを考えると、ましてやね、もう人口が減ってくる、特に、例えば妙高高原にしてもそうですし関山にしてもそうだし上の方にいけばどんどん高くなってくんの通勤だっただけ、そうしたら当然和田とかね、そっちの方の和田地区だとかこういう北新井とかあの辺に人口増えるの当たり前ですよ、これそっちに移行するのはこれ。こういうところをしっかりと行政として目を当てるようにしなきゃ私いけないと思いますよ。ここのね定期のね額はやっぱりね、我々としてね、学生さんとか、それから、ある程度補助してこっちに住んでもらう、地方に住んでもらう地、その山間地も住んでもらうっていう考え方が、私必要だと思いますよ。もう何十年も経過してるからって言って、並行在来線の意義ね、その時の意義ってのはすごく重要だと思います。その辺をもうやはりね、ただ言ってるだけじゃなくてそこは強くね、言わなきゃいけない部分だと思う。何のための調印だったのかっていうことを言わなきゃ私いけないと思いますよ。それからね一般質問ね誰がね、そしたらやっぱり関山にしても、妙高にしても駅からすぐに通え、行けるちゃんと駅があるってことは、すごく学校と一緒に重要なんですよ。これがなくなればまた人口がどんどん減っていく、その増強してる、来るの確実じゃないですか。今でもそれ不便になってきている。その辺をやはりしっかりとって提言していただきたいと思うし、この値上げの想定、これに関しては、もう一度組み直しかもやっぱり市としてのね、補助をね、やっぱり考えていかなきゃ私いけないと思いますよ。お願いいたします。

○議長（小嶋正彰） 今田議員。ごめん。すいません。岡田環境生活課長。

○環境生活課長（岡田雅美） お答えいたします。議員の中にありました通り 9000 円、高田から妙高高原から高田まで 9800 円ぐらいですか。この辺もあるんで、この辺は値上げに際してはちょっとまた見直し方検討しておりますし、あと 20%にも、現時点で決まった数字ではございませんので、先ほど委員の発言もあります通りできる限り、また、トキ鉄に頑張ってもらおう中で、少しでも値上げ率を抑えるような形で、検討の方を今後も進めていきたいなというふうに思っております。

○議長（小嶋正彰） 宮澤議員

○議員（宮澤一照） このね、補助に関してなんだけれども、補助もある程度枠っていうか、額面以上のものに補助するとか、そういうことがあるんじゃないですか。その辺、どうなんですか。例えば、通学のやつ全てにおいて額が低くても補助がでるとか、1 万円以上出た時に、それが補助が出るとか、それを再確認させて。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長

○環境生活課長（岡田雅美） 現時点の制度では、バスと電車乗って、1万円以上。というところの超えた部分について2分の1を補助するというような仕組みになっておりますが、これについても、ちょっと現在まだはっきりは言えませんが、拡充する方向で今検討しております。

○議長（小嶋正彰） 宮澤一照議員

○議員（宮澤一照） 是非ね、そうしていただいて、本当に負担のないようにね、学生さんに、私はねむしろねそこはね、しっかりとね、行政として、考えてやらなかったら私はいかんと思いますよ。もう1つ、企業努力でね、行政だけが、行政じゃなくてトキ鉄だけが、企業努力する、それで反映させる要するに宣伝させる、努力するっていうことよりも、我々として行政として何ができるか。例えばね、杉野沢にくる、ねえ、海外リゾート、海外から来るリゾートあるでしょ、それはあくまでも長野かで降りて、そこからまたしなの鉄道で妙高高原まで行くっていうことがやっぱり主にメインになってくんじゃない。むしろそれを上越妙高から行って、そこから、トキ鉄に乗って上に上がってもらうってことだって、これ考えられるように持っていくことだって必要じゃないですか。海外リゾートについてね、私はね、そういうことをね、やっぱり行政として計らうことも必要だと思いますよ。市、長野で降りて、長野からしなの鉄道で行けば、トキ鉄にお金落ちませんよね、これ。トキ鉄にお金を落とせば、乗車率だって上がってくんでもそういうことをやるような努力っていうの我々、もう行政としてやっぱ私してないんじゃないかと思う。どうも話を聞いてみると全部妙高、長野駅で降りて、長野駅からしなの鉄道に乗り換えるかねっていう形、もしくは上越妙高駅からだってシャトルで出る、でもトキ鉄の電車で上に上がっていくっていうことの努力も私必要だというふうに考える、その辺はどのようなお考えでしょう。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長

○環境生活課長（岡田雅美） すいません、今回の説明についてはですね、鉄路の存続について、どういうふうにしていくかという支援スキームをやってるんですが、当然長野からの先般の新聞等でも、妙高に入る入口はどちらかというところはちょっと議論になっておりましたが、当然、トキ鉄を使ってもらってですね、入るのが理想ですし、トキ鉄は今後運賃のIC化っていいですか、しなの鉄ではスイカ導入するって言うておりますが、その辺の検討の方も、どういうのがもういいのかわからんですが、外国人がばってこれるような、そういった支払い方法そういったのも検討するというにしておりますので、見極めて、できるだけ多くの方が使ってもらえる形に持っていきたいなと思っております。

○議長（小嶋正彰） 宮澤議員

○議員（宮澤一照） いや今ね課長おっしゃられましたけどね、トキ鉄の存続っていうのは、通学通勤だけじゃないですよ。やっぱり乗客をいかに増やすかってところでしょう。そのスキームの説明だってその根底にあるのは、いわゆる人がお客さんがどれぐらい乗るかじゃないんですか、それ違う、どうなんですか、これ。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長

○環境生活課長（岡田雅美） ちょっと言葉に語弊があったようですが、当然最近の旅客運賃って普通の切符自体は、切符自体こられる方が非常に増えてると、通学通勤使う方はちょっと少なくなってますが、ここを訪れる方が多くなってるというのが現実でございますので、当然その辺も含めて検討していきたいと思えます。

○議長（小嶋正彰） 宮澤議員

○議員（宮澤一照） 海外資本の杉野沢にばっか、とらわれてるんじゃないかと、その辺をどうやって誘客するかによって、えらくそのトキ鉄の利用の仕方が変わってくると思いますよ。そこをしっかりとやらないと、だって人口が減ってきて、乗客はみんな車社会になってきちゃったら、それでなくても減ってる場所に運賃が高くなって660円だ

とかね、どんどん上がっていくそのスキームの中で、誰が乗るんですかってことになる、例えばサイクリングロードだって言ってやるにしたって、そこでお金がどれぐらいかかるんですかっていうことだっただけかかってくるけれども、そういうことをしっかりと考えていかなかったら、根底は通学の通勤通学だけじゃない。本当にそう。そこがメインじゃないんですか、乗客をいかに持っていかってということ、下から上に上げていかってということだっただけ必要だと思いますよ。そこはね、これ、城戸市長どういうふうにお考えですか。

○議長（小嶋正彰） 城戸市長

○市長（城戸陽二） お答えさせていただきます。今回のスキームの中で、県からも多分、多額のお金を用意していただく中で、各沿線自治体がそれぞれ、利用促進を図ろうという、ことは、一応言われております。その1つが、たまたま今ご提案、ご説明している定期券ということだけで、当然利用促進を図るために様々な手段は、それぞれ自治体は知恵を絞って検討していく、いかなければいけないと思っております。なおリゾートに関しては、一部報道で長野駅という話が出ましたが、私はその後の記者会見で長野駅もというふうに訂正をしております。長野駅もというふうに、当然妙高にくるお客様は、長野駅だけでなく上越妙高駅も含めてでありますので、その働きかけは、私の方からは、相手の会社に対してすでに、アクションを起こさせていただいております。

○議長（小嶋正彰） 宮澤議員

○議員（宮澤一照） この行政は杉野沢だけじゃないんですよ。やってることは、リゾート開発だけじゃありません。他にもリゾートはたくさんあるんです。それらも考えていなくてアパリゾートもそう、ロッテもそう。その辺を含めたときに、その利用価値をいかにトキ鉄もそう、にうまく持っていかってということの宣伝能力ってのはすごく大事だということになってくるので、このスキーム、この存続のための一番の根幹ってどこにあるかっていうことが全く考えられないで、ただただこの説明をしているだけ、定期が上がる、こんなのは言語両断だと、同断だと思います私。まず一点は、まずその乗客率をどれだけ増やすかっていうことに関しては、全然考えてないじゃないですかこれ。どうやってこれ乗客増やすんですか、トワイライトエクスプレス、昔からなくなってますよね、でも今トキ鉄で雪月花でもあるんだし、そうやってそれは運動してますよね。そういうことのスキームに対してお金を予算するにあたっての妙高市としての考え方、それに人口減少問題としてのをいかに問い合わせて、一緒になってからましていくかっていうことが、私すごく重要だと思いますよ。ましてこのトキ鉄の今取締役って今どなたになってんですか。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長

○環境生活課長（岡田雅美） はい取締役副市長さんが就任しております。

○議長（小嶋正彰） 宮澤議員

○議員（宮澤一照） 取締役である副市長が何でここに参加されてないんですか。

○議長（小嶋正彰） こちらの方から要請しておりません。

○議員（宮澤一照） 取締役として、その意見を、会社の方でいかにその話をやっているか議論されてるかっていうか非常に興味は私はあるところだと思います。そのための取締役でこの妙高市から代表されて、ずっと、出られたんだと思いますよ。それらを考えて今どういうふうな意見になってるかっていうことが、これ重要なことだと思うんですけども、ぜひその辺の見解でもう一度お話しいただければと思いますが、いかがでしょう、どなたなんだろう。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長

○環境生活課長（岡田雅美） 今回の説明の中にはどうしても支援スキームということでご説明させていただいておりますが、実際あのトキ鉄の中ではですね、活性化委員会、トキ鉄利用活性化委員会ということで、トキ鉄さんにつ

きましては、例えば今年10周年記念事業、今年実施しておりますし、子どもたちに乗ってもらうように、わくわく仕事見学ツアー、こういったイベント、或いはレールパークのイベント、子ども無料事業無料の日、地元パス、ツアーパスというような特殊のツアー切符で妙高市におきましても、利用促進を図るため、新井駅前でのあらい七夕まつりですとか、あと関山の駅前でも、屋台村、移動図書館こういった催し、それとさ、先般行われました新井駅の料理フェスということで、それぞれ市町村が知恵を絞りながらですね、利用促進に向けた取り組みをやっておりますので、そういったものを加味する中で、行政としてどういう支援ができるかという部分も、ちょっとこの書面では出てきていないんですが、そういったのを前提としている中で、この支援スキームを作ってるということでご理解いただければ。ありがたいかなと思っております。

○議長（小嶋正彰） 宮澤議員。

○議員（宮澤一照） これ資金不足として20億から25億程度の資金不足がっていうことなだけけれども、やはりね利用できない、ていうか不安を感じる部分だって確かにあると思うんですよ。まず1つ先ほど課長がね、おっしゃられたように向け、以前は計画的なね、停止とかそういうことはなかったと思うんだけど、それはね、車両が軽すぎるからなんですよ。普通の電車でいっくら登ってこない落ち葉だって上っていかないんだから。でも、以前の列車は違いましたよね、ちゃんと強くて重くて、昔の我々のときは、我々が学生のときはやっぱり違う、その理由っていうのは、普通の地下鉄とか要するに都会で使われる電車を使ってるから、当然登っていかない。いわゆる車で言えば、四輪駆動かFFかっていう、それと全く同じようなもんじゃないですか。落ち葉でも上っていかないんだから。やっぱりそうなってくれば当然使わなくなってくるっていうところの理由も私はあると思います。それらをまずし、国にしてもそうだしトキ鉄だけじゃない、県だけじゃなくて、やっぱり並行在来線という意味合いの中でね、しっかりそこは使えるっていうことを、この地域の铁路の重要性っていうのもっと訴えなかったこれ何十年も言ってるけど、私だって委員長やってたし、ここはね大事なことだと思いますよ。それを、もうすぐにこれじゃ市民に全部、何て言うんですか、こういうお金の工面にしても、みんな苦勞させている市民にじゃないですか。これじゃ駄目だと思う。なんでもっと言うべきだと思います。その辺もう1回、再度いかがですか。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長。

○環境生活課長（岡田雅美） 先ほどもちょっと申し上げましたがこういった地方鉄道って非常に厳しい状況があるということで、全国在来線協議会ですとか全国3セク協議会、こういった協議会もございますので、それぞれ国の方にしっかり働きかけていきたいなと思っております。

○議長（小嶋正彰） 他にございませんか。今田議員。

○議員（今田亜樹） よろしくお願ひします。今回一般質問でも少し駅のことでお伺ひしたんですけれども、その前に地方鉄道ってどこも多分ぎりぎりです今運営してるんだと思うんです。今公共交通のちょっと勉強を個人的にさせていただいてるんですけれども、その中でどうやったら鉄道が魅力的になるかというようなことで、いろいろと全国の皆さんと考えてます。妙高市に置き換えた場合に、今回、トキ鉄さんが、収入確保などの自助努力というふうには、検討内容の2の（1）のところに書いてるんですが、宮澤議員もおっしゃったように、自助努力以外の部分で私たちが何ができるのかなというのを、いろいろ考えた中で、一般質問の再質問でもいくつか言ったんですけど、雪国だから、大体みんな車が一番いいと思うんですよ。何で鉄道使わないかっていうとやっぱり、ただ単に使いづらい、例えば障がいがある方は、駅に行って乗ろうと思うとすごく使いづらかったり、冬、雪が降っちゃえばもうそこで諦めて自分の車を使っちゃったりとか、いろいろと駅を、もう今後使いやすくするのであれば駅を拠点とした、使いやすい環境整備というのを考えていくことが、大事な鉄道を守るというか鉄道に誘導する方策。妙高はトキ鉄さんが走っていて、外から来るにも、大量輸送してくれると。なので、トキ鉄さんだけにいろいろお願ひ

するのではなくて私たちが、お金のことはやっぱり国との関係もあると思うので、できることっていうのを、市民の皆さんと考える機会があればすごくいいなというふうに思うんですね。2次交通との接続だとか、駅周辺の整備、そこら辺をやっぱり少しずつでもやっていくことで、少しでもやっぱりトキ鉄さんに人が乗る、乗りたいと思える、そういったようなことを考えてもらえるというか一緒に考えられたと思うんですが、今、地域公共交通の計画を多分策定してると思うんですけども、そういったお話はその計画には特にはないんですかねちょっと中身見てないんでわからないんですけども。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長

○環境生活課長（岡田雅美） どちらも当課の担当ということで、交通公共交通計画についても、当然トキ鉄へのアクセスは十分配慮していきたいと思えますし、今、たびたび申し上げてます通り、駅をにぎわいの施設といいますか、場所にしたいということで、七夕まつりですとか、より料理フェスということでこの間もそういったイベントの開催してもらってますし、乗る人ももちろんあれですけど、乗らない人も、この駅の方に寄ってくると何かがあるというような催し物、こういったものをですね、また、企画政策さ、企画政策課さんと連携しながら、或いは関係課とも連携しながら、そういった雰囲気づくりっていうか、催しものみみたいのを今後も検討していきたいなというふうに思っております。

○議長（小嶋正彰） 今田議員

○議員（今田亜樹） ありがとうございます。私は駅に来たらぜひ乗っていただきたいというふうに思うので、にぎわいづくりももちろん大事なんですけれども、乗りやすい体制づくりとか環境づくり。降りた人が例えば駅降りて、どこかに行くにはどうしたらいいかがすぐわかるような案内だとか、それこそまた駐車場とか、要は駅に乗りやすい駅に来て、鉄道に乗りやすい、にぎわいも大事なんですけど、どっか行く手段なので移手段なので、乗ってどっか行く、それがやりやすいような形を考えることも同時に必要だなと思いますのでその辺また、一緒に考えていきたいなと思います。よろしくお願いします。

○議長（小嶋正彰） 他にございませんか。

---

## 2) 妙高高原駅バリアフリー化手法の変更について

○議長（小嶋正彰） 続きまして、2) 妙高高原駅バリアフリー化手法の変更について報告願います。

岡田環境生活課長。

○環境生活課長（岡田雅美） 続きまして2点目ということで、妙高高原駅のバリアフリー化手法の変更についてということでご説明させていただきます。えちごトキめき鉄道の妙高高原駅につきましては、兼ねてより、外国人が多く訪れたり、或いは跨線橋が歳を通られた方が、上り下りするに不便だということで、要望等がございまして、一旦、平成28年ですか、基本構想を作って、市の方で整備するという計画で進んでおりましたが、工事費等が非常にかかるということで一旦断念した経緯がありますが、その後、県の方も支援を入れてくれということで、令和5年度に、エレベーターを設置するというので、基本設計の方を行いまして、調査を進めて参りました。で、1これまでの経緯ということで基本設計の結果といいますか、そういったのを踏まえてからのこれまでの経緯について、この全員協議会資料ということで説明させていただきたいと思えます。基本設計を行った結果、令和6年の2月28日トキ鉄の方から、基本設計を踏まえ、本体工事費が増大する可能性があるとの説明を受けました。その増大の原因といたしましては、エレベーターを設置する際にその地盤の調査を行っておるんですが、駅側の地盤の方が11メートルで支持地盤が出たのに対して、駅の反対側、2番線3番線ホーム側のいわゆる島ホームというところのと

ころ掘ると23メートルまで掘らないと支持盤が出てこないということが判明しまして、これをどう機械、或いは人力、そういったもので、いろんな方法はあるんですが、非常にお金がかかる可能性があるということで、基本設計の際には跨線橋の上り下りに影響出ないように、跨線橋のちょっと外側で掘ってるんで、本当に真下に掘ってみようということで、トキ鉄の方で6月、4月から6月ですかね、6月にかけて、再度ボーリング調査、跨線橋の本当の真下の方で、やった結果、やっぱり23メートル掘らないと、支持基盤が出てこないということで、エレベーターを設置する際には、非常にお金がかかるという方向になりました。そういうのを踏まえて市では事前にもうエレベーターが難しい場合の手法ということで、かねてから平面乗り換えという方法。2番線に入った、しな鉄さんのお鉄道を、そのまま1番線に桁式ホームをつけて、改札に出るという方法、こういう方法も考えられるんじゃないかということで、ボーリングの再度の調査と並行して、トキ鉄さんの方にはそういうお願いもしておりました。結果、6月24日、追加ボーリング調査の結果やはり、軟弱地盤で今の跨線橋なる下掘ったとしても、23メートルまで掘らないと支持基盤が出てこないということで、当初概算工事費として提示のあった4億2800万から、最大で14億程度になるとの説明を6月24日に受けております。これを受けまして、市では平面乗り換え、これはもうエレベーターがなかなか難しいということで、平面乗り換えへ手法を変更するようにトキ鉄に正式に依頼しました。ただ、これまでずっと国に対してもバリアフリーということで、エレベーターの設置ということでお話しておりましたので、その変更方針変更について、国の補助を、国交省の方に、その手法の見直しを行った場合にどのような補助なり支援がられるか、或いはご承知の通り、JR貨物さんも、線路を利用しているということで、平面乗り換えとした場合に果たしてそれが影響がないのか、そういったも含めて、7月から10月までトキ鉄さんの方で、交渉しておりました。その結果、11月7日トキ鉄から平面乗り換えについての確認結果の説明を受けたということで、実質的にはこっからそちらの方向に向けてスタートしているような状況です。ただ平面乗り換えにした場合に、今のホームが電車の降り口よりも下がってるということで、この辺、既存不適格という言い方になりますが、もし、平面乗り換えとするのであればその辺の解消もお願いしたいということで、国当局からはご指導を受けているようなところでございます。そのような方向の中で11月22日におきまして、基本的な今後のスケジュールといたしまして、今冬から基本設計に着手する、基本設計を踏まえて、工事内容を精査しての工期の圧縮を検討すると、現段階では今このような状況になっております。令和7年度末までに詳細デック詳細設計をいたしまして、令和8年度に工事着手すると、こういうスケジュールで今考えております。平面乗り換えの概要ということで、なかなか言葉だけでは伝わりづらいということで、3枚目に列車の乗り入れイメージということで、この図面を見ていただきますと、この黄色の着色されている部分、1番線にこの部分を新設いたしまして、2番線に入った、しな鉄から直接改札口も跨線橋もエレベーターも使わないで、そのまままっすぐなちょっと曲がってますけど、ほぼまっすぐ改札に出られるということで、エレベーターに乗り降りするとか、そういったものはなく、すぐに出口に出られるということと、非常に経費、工事費が安く済むというこの2点、あと、工事期間もエレベーターに比べりゃ短くすると。いうところで、現在平面乗り換えにするということで、トキ鉄当局とも当局県と、そういう方向で進めております。なお予算につきましては、今年度エレベーターを設置するというので詳細設計のための予算を持っておりまして、この予算を基本設計の部分に振り替えるということで対応させていただきたいと、いうふうに考えております。以上、説明終わります。ありがとうございました。

○議長（小嶋正彰） ただいまの件について何かございますか。霜鳥議員。

○議員（霜鳥榮之） 説明は説明としてなんですけども、議会としても、トキ鉄と何回も妙高高原駅のね、フラットでもって乗り換えできるように、いろいろ意見交換もやってきたけども、ただ変わってきたのは、担当所管課なんですよね。ここだけ変わってきてるんです。あっち行ったりこっち来たりしてね。特別委員会作って何回もこれやっ

てきた。フラットでもって乗り換えできると、これもそんときにやってきて、ほんでそれが駄目だって言ってエレベーターにしましょうって、市でもってその負担すんだったらエレベーターでいいですよってお金掛かりすぎてどうにもならん。なんかね。そこんここでグルグル回っただけなんだよ。本気なのかっていう。言い方になっちゃうの。またこれやって何年も先行くわけでしょ。特別委員会やってるときにさ。やっぱりインバウンド関係とか高齢者の関係とかね。今乗り継ぎでもって、乗り継ぎしやすくして利便性を高めて、ということをやってきていたんだけど、本来ね、このパターンを、最初からここだったらこれでっていう、議員職員皆にこれ提案してたんですよ。ここでもっていいとか悪いとかって、0番線までどうするこうするってやってたんだけど、結局連絡経路の配線の関係でどうのこうのっていう話もあって、誰でも、気楽に電車使って鉄路を使って、出かけられるようになってって、そんなときはね、エレベーターにするかフラットにするかなんです。直接これさ、高原から直江津の間でもって、車椅子でもって乗降できるのってどこなんですか。1回しかなかったら利用できないってことなんですよ。そういうものを視野に入れないでね、その間に合わせみたいなの、計画作ってるから。ただそれをもってあっち行ったりこっちだけ時間かかってるだけ。これだって、結局は最終的にどうなんですか。結局金かかって大変でどうのこうのっていつなんだかわからんようなところに向かってくような、こんなレベルの話しちゃうんじゃないか、おっついていけないんじゃないかなと思うんだけど。これしかないんだっていう形なんですか、言ったときに、一気にがばってどっかでもって金出して、何とかなるっていう、ここも考えなきゃいけないんだよね。さっきは、利用料金の値上げでもってさ、利用者に負担をかけてさ、これだって、並行在、さっきもありましたけどね、並行在来線でもって、3セクに移して、負担はどうするこうするっていうそんな議論がちゃんとやってきてる。ほんで、だんだん負担が大変になってくるっていうことはその時から、そのときから分かってる話なんだよ。ほんでだったらもっとお客さんにサービスして、多く利用してもらってっていう、ここでもって稼ぐっていう手だてが全然できてない、さっき宮澤委員って言っていたもんね。議員が言ってたけどね。だからそこんところどうすんだと。もっと目の覚めるような話をしてもらいたいなと思っただけどいかがですか。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長。

○環境生活課長（岡田雅美） はい28年に基本構想ができた時点でも確かに1番線にホームかけるという話がありました。私もその辺を確認しましたが、当時の担当者にも確認したんですが、当時は列車の長さがやっぱあったということで、どうしてもホームまで構わなきゃいけないということで、結果的にはエレベーターがいいんじゃないかというふうに話になったと聞いております。現在では、もう2両もしくは3両の電車がほとんどですので、1番線にホームをかけることも可能かということで、現在そういう方向で動いているということです。あと、利用促進当然先ほどの話とまたかぶってくるんですが、これについてはですね、3市ともいろいろ知恵を絞りながら、連携しながら、或いは通学者に目をかけながらということで、何とかそういった利用者に不便をかけないような形で、今後進めていきたいなというふうに思っております。

○議長（小嶋正彰） 霜鳥議員

○議員（霜鳥榮之） 今、課長ね、当時は電車の連結の関係でもって長かったから場所的にどうのこうのって言うけど、こんなの言い訳でしかないですよ。読みが甘いっていうことで1発で片づいちゃう、そういうの。だから、どんだけの差があってどうなんだ、こっから先どうなんだって言うてみているながら、じゃあ最低限長さはここまでだっていう、そういう読みでいいわけじゃない。よその、何ていうかね、電車鉄路のこと見るとね、例えば、例えばなんですよ、都会なんか行ったらさ、繋がって行ってこっからこっちはどここのって切り離してこっちは行きますこっちは行きますってなるんだよ。で、あそこでもって乗降じゃどうなんだ。乗降どうなんだって場所少なかったら、ホームへは、こんなにしか入りませんので、乗り換えする皆さんはこっちに寄ってくださいよって、こんなで

きる話じゃないの。読みが浅いと思うんですよ。真剣み、読みが浅いってことはね真剣みが薄いってことになっちゃう。最終的にどうなんだってことなんで、そういうところをもっともっと踏み込んだ形の中で、どうするこうするをのんびりした話じゃなくて、真剣に向かってなきゃ駄目だと思いますよ。だから、ただここでやったから、じゃあこんでこんでなんて言っても、ただ私たちはね、意見を述べるだけ、口でもってしゃべるだけでもって銭出せるような力ないわけだからね。だけど、しゃべることは負けないでしゃべりますんで、またよろしくお願いします。

○議長（小嶋正彰） 高田議員

○議員（高田保則） 確認ですけども、今新しいホームもできて、今のしなの鉄道は従来通り2番線、それともう1つはですね、今トキ鉄は1番線と3番線の両方を使ってますよね。この図面見ると、今度全車両1番線を使うということになるんでしょうか。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長

○環境生活課長（岡田雅美） トキ鉄さんは、基本的に1番線を利用することになります。

○議長（小嶋正彰） 高田議員

○議員（高田保則） 先ほどJR貨物の関係もありましたけども、これですと、3番線が専用線ということに、なるわけですよ。その辺はJRとのコンセンサスは得ていると、いうことだと思います。ただですね、今の、特別列車、将来、今も雪月花ですか、3番線に留まってるっていうのもあるし、多分今回、今後、今の杉野沢のリゾート開発進むと、多分妙高高原駅はしなの鉄道を使うか、トキ鉄を使うか良くわかりませんが、依然としてやっぱりこの中心の駅になるわけですよ。その辺のも利便性っていうのは、将来的に考えていらっしゃるかどうか、私、交通対策特別委員会でも0番線という話でね、もう随分議論したんですけども、それはちょっとなんか、金の問題じゃなくてどうのこうのって言い訳してましたけども、今の1番線ホーム、使うについて、やはり3番線、特別列車停車するなんてもんじゃなくて、やっぱり、0番線を使って、1番線と同じホームでやるというような式の方が、利用者に関しては非常に便利、利便性が高いと思うんですけど。将来に向かって、どういう構想か、もしありましたら、お聞かせください。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長

○環境生活課長（岡田雅美） はい私も昨年来てこういう状況になっていると聞いたときに、0番線を私もですね実は利用できないかということで、考えたんですが、ここは管理上必要なレールであって、旅客用には使えないということで、はっきりとトキ鉄さんの方からそういうふうに申し言われておりますので、ちょっと難しいのかなというところがあるということで、現在の形に、落ち着いたということでございます。

○議長（小嶋正彰） 他に、高田議員。

○議員（高田保則） 0番線はいいとしても、将来、例えば、実際は増発だとか、増発だとか、特別、普通列車仕立てだとかっていう、将来のことについては、そこまで考えて、こういう設計をされてるのかってことでお聞きしたいわけです。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長

○環境生活課長（岡田雅美） 現時点でそこまでは考えておりません。まずは長野方面から来たお客さんを安全確実に、ホームまで持っていくということで、今回こういうふうな設計もさせていただいているところでございます。

○議長（小嶋正彰） 阿部議員

○議員（阿部幸夫） 1つ聞きたいんですが私も、特別委員会やってきた中でですね、実は今ほど長野から妙高高原の交通をよく考えていきたいんだということも言われたわけですが、これまでの中でですね、しなの鉄道がどうしても黒姫で雪があると止まってしまうと、そうすると黒姫で皆さん降りられて、そして妙高高原ですね移動、違うバ

スに乗るのか、そういう動きが今までも何回もあり、あったというふうにも聞いてますし、情報もあります。こういうところも、今回の改善でですね、そういったところまで踏み込んだですね、改善策なんていうのは話し合いできてるのでしょうか。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長

○環境生活課長（岡田雅美） しな鉄さんにつきましてはですね、冬になる前に市長さんも行かれてますが、市長の方でもしな鉄の本社でですね、冬期間にそういったものが、ただ止め、妙高高原までいなくなってしまう場合があるということで、その辺の方は、しな鉄のところをお願いしております。今回のこの中にはその辺ところまでは、含めておりません。ただ、駅を改修するにあたっては当然しな鉄さんにも連携取りながらやる、電車の運行に支障がないようにするとかありますので、そこら辺は連携取りながらやっていきたいなというふうに思ってます。

○議長（小嶋正彰） 阿部議員

○議員（阿部幸夫） それでは、そういう形の中で言われたら利便性なんて全く変わってないと。インバウンドで長野から乗ってですね、妙高高原くるのにですね、黒姫で降りてしまう。または通学も逆に長野に通学してる方もおられるわけですね。そういう意味では逆に言ったらもう利便性というのは向上してないじゃないかと。こういうことになるわけですけど、やっぱり妙高高原の皆さんは、今までエレベーターを作って欲しいというのはやっぱり、その移動、移動においてですね、買い物に行ってもですね、階段を上るようにするのが非常に大変だと、こういう形であったわけでありまして、長野の方に買い物行くわけですよ。そういう意味ではやっぱり、黒姫から妙高高原の間というものは、冬場でも買い物に行くわけですから、逆に言ったらどうなのかと、いうことをきっちりとしてですね、こういう課題が出たときに、当然地域の皆さんは意見を出してくるかと思しますので、逆にそういうところをきちんとしていただきたいというふうに思うんですが、もう一度決意も含めてですね考えをお願いします。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長

○環境生活課長（岡田雅美） しな鉄沿線の自治体の関係者が集まる会議もございますので、そういうところでも、話に出して、当局にまたそういうことができる限りないよう、こちらから長野に行くお客さんも非常に大事にしてもらいたいというふうに、言っていきたいと思えます。

○議長（小嶋正彰） 天野議員

○議員（天野京子） 私妙高高原出身で、高校時代はよく電車が止まっていることがありましたけど、今先ほどの話のように、列車も2両か3両しかないで、今回初めてホームを作って、何とかやれることができるようになったということで、逆に地元の方はエレベーターじゃなくても、平面であれば、重い荷物を持って入れますし、最初っからこの方式でよかったんじゃないかなと私は思っております。それですね、ちょっと私お伺いしたいのは、地元の皆さんが期待と希望を持って、エレベーターができるというふうに認識を今されていると思うんですが、今日私たちもここでいろいろお聞かせいただき、いただきましたけど、切実な思いで見守ってる方もおりますので、ぜひとも関係各位に丁寧な説明をしていただければと思います。その点そういう予定等は含まれてますでしょうか。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長

○環境生活課長（岡田雅美） はい現時点でいつというのはございませんが、先般の質問の中でも言った通り、これから基本設計、詳細設計と進んでいきますので、いつごろできるかも含めてですね、こういう方式でいついつできますというような形でのアナウンスの方はしていきたいなと思っております。

○議長（小嶋正彰） 天野議員

○議員（天野京子） 今、聞かせていただいた中かなり国の補助金を利用ということで、書いてあります。国の補助金ここで利用ということはある程度筋道がついているのかこれから一生懸命陳情するっていう意味なのか、この点

どうなんでしょうか。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長

○環境生活課長（岡田雅美） エレベーター設置のための、協議ってのはずっと続けてきておりましたので、今回ちょっと時間がかかったのもその方針変換にちょっと、やっぱ時間がかかったというだけであって、予算的にはめどがついているというふうに考えてもらって結構かと。ちなみに、国3分の1、県3分の1、市3分の1というような仕組みでの、これから詳細設計等進んでいくような形になります。

○議長（小嶋正彰） 他にございませんか。葭原委員。

○議員（葭原利昌） お願いします。今後、考慮していただきたいという観点で申し上げます。それこそ、6月25日に市は平面乗り換えや手法を変更するようトキ鉄に正式依頼したとあります。県も了承済みとなってるんですけど。やはりこの非常に大きなこれ政策判断の変更ですよ。予算の当時私も議決したのはこの方法じゃない、予算で議決して、ずっとこう来てたわけですよ。今回エレベーターじゃなくて、平面乗り換えになったといったところで、トキ鉄に正式依頼して県も了承してるっていう段階で、これは私どものところには全くお話は説明はなかったわけですよ。今、その3カ月後になって今こういうような状況説明を、過去の経緯を振り返ってこうでしたって言うんですけども、いろいろな細かな点の確認はあるにせよ、そういうふうに変更したんですっていう場面を、やっぱり今じゃなくて、6月の下旬ないし7月でもいいですし、やはりそこは、タイムリーにね、議会側に対して説明っていうのはすべきだと思いますが、いかがですか。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長

○環境生活課長（岡田雅美） ちょっとタイミング、ちょっといわゆる今までのいろいろな経緯の中でですね、そのトキ鉄さんが本当にこっちの方で動けるかっていう部分を見極める必要があるということで、ちょっと見てたんですが、それが余りにもちょっと、3カ月もちょっとかかってしまったということで、議員の皆さんにお知らせする機会をちょっと逸してしまったっていうのは、誠に申し訳なく思っております。

○議長（小嶋正彰） 他にございますか。岩澤議員

○議員（岩澤 愛） 確認になるんですけども、直江津方面のあのトキ鉄っていうのは、もう完全に1番線のみで、特別列車、雪月花とかがあったりしても、3番線で乗り降りは一切なくなるっていう、そういうふうな解釈してよろしいんでしょうかね。それとも、何ですかね。今、多分雪月花が1番線で3番線でトキ鉄に乗っていくとき、そういう時間帯もあったかなと思うんだけど、そういったところも何かみんな調整して、3番線で乗り降りっていうのが今後なくなる予定っていう、そういう意味合いでしょうか。いかがでしょうか。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長

○環境生活課長（岡田雅美） 現在、雪月花は1番線に確か留まっているかと思うんですが、今後どういう形になるか、そこまで実はあれですけど、3番線基本的に貨物列車かいは優等列車が使用するというようなお話で今聞いております。ただ運用上どうなるか、雪月花がどうなるかまではちょっとすいません、確認していないので申し訳ございませんでした。

○議長（小嶋正彰） 他によろしいですか。阿部議員。

○議員（阿部幸夫） 先ほどちょっと質問させていただいて、もう1つ、わからない点がありますので明快にちょっとお答えいただきたいと思うんですが。先ほど黒姫のところで長野の電車が止まってしまうという話をさせていただきました。そこでなんでですね、あそこで、雪ということで止まるんでしょうけど理由はですね、何であそこで止まるようになってしまったのか、本来であれば通常は妙高高原に来るわけですよ。来るんですよ。率直に言って、この図面でいったりいろいろして、なぜあそこで雪のことで止まるというんですね、ことっていうのはですね、

あそこに住んでいる皆さん方や妙高高原、私もそうなのですが、どうしてそういうことが、逆に起こってしまうのかと、向こうのすねしなの鉄道の方で判断してすね、これ以上動きませんと、そこで止まってしまうのかですね、そこら辺のことについてどのようなのか、少しこれまでの経緯を教えてください。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長

○環境生活課長（岡田雅美） すいません、存じておりません。申し訳ございません。

○議長（小嶋正彰） しな鉄の話は、また機会をとらえてお願いします。宮澤議員。

○議員（宮澤一照） 確認したいんだけど、これあれですかね、妙高高原の駅は、基本的にはトキ鉄の方で、全部予算出して、例えばしなの鉄道入ってくるんじゃないですか。入ってくるしなの鉄道では、ある程度の予算っていうか税もあると思うんだけど、固定資産とかね、そういう、この辺の配分ってどうなってるんですかねこれ。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長

○環境生活課長（岡田雅美） お答えいたします。高原駅のバリアフリー化については、かねてからの基本的に駅については、トキ鉄さんは、国のお金を持ってくるということで対応してるということで、先ほども申し上げました通り、今回のバリアフリー化についても、国のお金が3分の1、県のお金が3分の1、市の3分の1ということで、それぞれ3分の1ずつ負担するような形で、工事の方進みます。しな鉄さんとの協議はトキ鉄さんの方で行っているわけですが、信号機をができるだけ信号機を動かすとか、そういう工事の仕方にはならないということで、今のところ、どういうふうに進めていくかというのは、こちらでまだそこまで把握してないと。

○議長（小嶋正彰） 宮澤議員

○議員（宮澤一照） 私の言いたいのは、しなの鉄道も乗り入れしてるんだから、ある程度は出さない出さないのかっていうことなんです。それ、それはやっぱりあくまでもトキ鉄でやるっていうことなのかと、それを確認したかった。

○議長（小嶋正彰） 岡田環境生活課長

○環境生活課長（岡田雅美） すいません。今回については、妙高高原駅のバリアフリー化ということになりますので、しな鉄さんから負担してもらってことを想定しておりません。

○議長（小嶋正彰） よろしいですか。

---

○議長（小嶋正彰） それでは以上で全員協議会を閉会いたします。ご苦労さまでした。

閉会 午後2時58分